

平成22年度 武蔵野市立第五小学校 学校経営計画

校長 清水 健 一

1 目指す学校

武蔵野市立第五小学校は、新しい時代を切り拓く心豊かでたくましい人間を育てる。

そのためには、知性を磨き、個性を伸ばす教育を推進する。

学校は子どものためにある。本校は、公立学校としての責務を果たすために、知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を実践し、心豊かでたくましい人間を育てる教育を経営する。

〈目指す児童像〉

○ **元気**で明るくやさしい子

・心身の健康の増進に努め、自己有用感と他者への共感を持ち、共に生きていこうとする態度と能力をもつ子ども

○ 心のこもったあいさつができるなど礼儀正しい態度を育てる。

○ 健康・安全指導を徹底する。

○ 外遊びを積極的にするようにする。

○ 自分のよさや特性を認識して自分に自信と有用感をもてるようにする。

○ 運動に親しみ、体を鍛えるようにする。

○ 自分のよさや友だちのよさを認め合い、互いに高め合える人間関係を築く。

○ **本気**で学び自分の考えをもつ子

・学習や生活の基礎・基本となる確かな学力を身に付け、広い視野と確かな見通しをもち意欲的に課題解決を図ろうとする態度と能力をもつ子ども

○ 話をしっかり聞けるようにする。

○ 物事への興味や関心、学ぶ意欲を喚起する。

○ 課題意識をもてるようにする。

○ 基礎・基本の知識と技能を徹底して身に付けられるようにする。

○ よく考え、それを豊かに表現できるようにする。

○ 権利と義務、自由と責任を理解し、よいことは勇気をもって実行するようになる。

○ **根気**強くがんばり協力し合える子

・いつも前向きで共に力を合わせ課題に立ち向かう強い意志をもつ子。

○ 学校生活全般を通して根気強く取り組もうとする姿勢を育てる。

○ チャレンジ精神を養い、初めてのことや苦手なことにも果敢に挑戦するようにする。

○ 協働や協力の気持ちよさを体験することにより集団の活力を高める。

○ 情緒の安定を図る。

- 感動体験を大切にす。
- 学校行事や体験活動を通して協力し合える集団をつくる。

〈めざす学校像〉

- 教職員一人一人が生きがいと誇りをもち協力して豊かな心や感性を育む教育を推進する学校
- 子ども一人一人が所属感と存在感をもつ明るい学校。
- 一人一人の子どもの自己実現を支援する活気に満ちた学校
- 教職員が受容的な態度で子どもたちに接し、温かい人間関係を築く学校
- 分かる喜び、学ぶ楽しさ、驚きと感動、成就感のある授業で着実に子どもの学力の向上を図る学校
- 学ぶ場にふさわしい環境を整える学校
- 家庭・地域との協働を推進する学校

2. 中期的な目標と方策

(1) 学力の向上を図る

- ① 教員一人一人の授業力を高め、基礎・基本の定着を図るとともに、言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を高める。
- ② 武蔵野市立小中学校の10の約束の徹底を図り、授業規律の高い学級集団をつくる。
- ③ 外遊びを推進し、健康な体と心をつくる。
- ④ 体験活動を重視し、豊かな感性を育む。

(2) 生活指導の充実を図る

- ① 学校内外で気持ちのよいあいさつが交わされるようにする。
- ② 規範意識を高め、正しい行動（ルールの遵守）ができるようにする。
- ③ 家庭との連携を図り、規則正しい生活とよりよい生活習慣の定着を図る。
- ④ 異学年交流を通して豊かな心の醸成に努める。

(3) 学校運営・その他

- ① 家庭や地域に教育方針を明確に伝えるとともに目標実現のため校長がリーダーシップを発揮する。
- ② 参観してもらうことで学校公開や学校行事等の取り組み状況を伝えるとともに、学校便りや様々な手紙、ホームページ等を活用し本校の教育活動をひろく家庭や地域に発信する。
- ③ 子どもを高め成長させていくために家庭や地域と連携して教育活動を進めていく。
- ④ 学校行事を通して子どもにつける力を明確にし、そのための手立てを共通理解し指導に当たる。
- ⑤ 避難訓練やセーフティ教室を充実するとともに外部からの侵入を許さない校内体制を確立する。

3. 今年度の重点目標と具体的方策

(1)学力向上のための土台固めを進める

- ① 授業中立ち歩いたり、まわりとふざけたりすることなく学習するということがあたりまえのこととして全員が理解できるように指導を繰り返し行う。
- ② 「学習のしかたの基礎的・基本的態度」について全教職員が一人一人の児童の状況を見て繰り返し繰り返し指導を重ねる。
- ③ 学級のすべての児童がよい姿勢で話し手の目を見て話が聞けるように学習過程の工夫を行う。
- ④ 話を聞くときはしゃべらないという習慣をすべての児童が身につけられるようにする。
- ⑤ きちんと相手に聞こえる声で自分の考えが伝えられるように指導する。
- ⑥ 学校公開等で、保護者の80パーセント以上が児童の学習に向かう姿勢が向上したととらえられるようにひとつひとつの改善を進める。

(2)分かる楽しい授業作りを進める

- ① ねらいがはっきりとした学習をすべての授業で実現するために週案簿にねらいを明記するとともにねらいを達成するための手立ても記入する。
- ② 授業の中で、児童が考える時間を十分にとり、考える楽しさ、考えたことを発表したときの達成感をたくさん味わえるように授業を組み立てる。

(3)生活指導の充実を図り一人一人が気持ちのよい学校生活を送れるようにする

- ① 教職員が率先して明るいあいさつをする。
- ② 学年、学級の目標を繰り返し伝え、児童に目指す学級集団の姿をイメージさせる。
- ③ 全教職員が共通理解の上に立ちルールについてきちんと指導する。
- ④ 家庭との連携を図り、生活チェックカードを活用して規則正しい生活とよりよい生活習慣の定着を図る。

(4)学校運営・その他

- ① 家庭や地域に経営方針を明確に伝えるとともに、目標実現のために家庭や地域の教育力を活性化するために、校長が副校長とともに家庭や地域と積極的に関わる。
- ② 情報発信の満足度を80パーセント以上とする。
- ③ 家庭や地域とともに学校における安心・安全を高める方策を進める。
- ④ 児童の健全育成の一環として地域が企画運営するジャンボリーやどんど焼等の地域行事には、可能な限り学校も一緒に取り組む。
- ⑤ 地域の方にご協力いただきゲストティーチャーとして児童が学ぶ機会を年間8回以上確保する。